

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：25407

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330278

研究課題名(和文) 日本障害児教育史研究の批判的・総合的検討による教育史像の革新と現代的意義

研究課題名(英文) The innovated perspective of Japanese history of education of children with disabilities studies through the critical and comprehensive analysis of them and the modern significance of it

研究代表者

中村 満紀男 (NAKAMURA, Makio)

福山市立大学・教育学部・教授

研究者番号：80000280

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の約150年近い特殊教育の歴史について、欧米先進国を参照軸としながら、日本の特殊教育の成立と展開における特質を究明し、特別支援教育の今後の改善に資することを意図した。戦前と戦後を一貫した観点から評価した結果、戦前においては、特殊教育に対して官民ともに関心が低かったわけではないが、後進国としての資源不足のなかで、特殊教育体制の偏りを是正できなかったこと、戦後においては、高度経済成長期に特殊教育も振興したが、地域中心の特殊教育体制を構築できなかったこと、特殊教育関連の情報や技術の先進国からの輸入と教育界での流行が、日本の特殊教育の自立を妨げてきたことが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：Our study intended to contribute to improvement of Japanese special education through investigating the characteristic of the Japanese special education during about one hundred and fifty years while making special education of the Western advanced countries a reference axis. As a result of our examination of Japanese history of the special education from the Meiji era to the present, we found that Japanese officials and the people both, didn't have little interest, but the materials shortage as a developing country couldn't be corrected that partiality of a special education system. And special education was promoted in a high economic growth period in the postwar, but the community special education system couldn't be built. In Japanese special education, the import of the theory and technology of special education from the Western advanced countries and their popularization in the special education circles have disturbed to establish the independent Japanese special education.

研究分野：障害原理論

キーワード：特別支援教育 歴史 障害児 戦前 戦後 中央集権 輸入 流行

1. 研究開始当初の背景

これまでの先行研究は、以下の点が指摘できる。

- (1) 1970年代以降の研究的知見が反映されていない。
- (2) 日本の障害児教育は後進的であるとの歴史的評価が多い。
- (3) 従来の歴史的解釈は表面的・部分的で、結果的な理解に陥っている傾向がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、つぎの二点である。

- (1) これまで蓄積されてきた近代以降の日本之障害児教育史研究を批判的観点から総合化し、新しい日本障害児教育像を提示し、それを具体的に体系化して記述すること、
- (2) 日本の障害児教育の遅れにおける内在的問題を究明することである。

そのために、

- (1) 1970年代以降蓄積されてきた、とりわけ県特殊教育史や学校記念誌等で開陳されている貴重な知見を、障害・時期・地域等について横断的に総合化し、体系化する。
- (2) 日本の障害児教育の後進性の所在を把握し、先進的な部分との関係を明らかにすることにより、特別支援教育における理論的・実践的問題の源となっている明治以降の日本障害児教育の内部的問題の構造を解明し、依然として残存する輸入学的状況から脱皮し、特別支援教育の改革の一助とする。

3. 研究の方法

1970年代以降の研究的知見を反映させながら、以下の点について史資料から明らかにする。

- (1) 日本後進国説を再検討するために、障害児に対するインフォーマルな教育的試行やキリスト教の盲啞学校創設運動を基準としない評価基準を設定する。
- (2) 挫折した盲啞学校創設運動の意図と結果を究明する。
- (3) 初等教育界の盲啞教育ならびに劣等児・低能児の教育に対する教育への志向を明らかにする。
- (4) 偏頗な特殊教育制度の形成とその源を、資源配分と配置の偏りから究明する。
- (5) 理想とした欧米モデルに対する評価を究明する。
- (6) 戦後特殊教育振興政策、養護学校義務制、特別支援教育に区分して、発展と停滞の源を究明する。

4. 研究成果

主な研究成果は、以下のとおりである。

- (1) 明治初期にあっては、廃人学校規定

と日本教育令原案にみられるように、中央政府内には、世界的にみても斬新で画期的な構想があり、地方高官にもその影響があったこと、

- (2) 少数例ながら、全国の小学校で障害児の教育が試行されていたこと、
- (3) 仏教の盲啞学校創設に対する貢献は、キリスト教のそれとは異なる様式であること、
- (4) 盲啞学校の設立過程では、障害当事者、医師、教育界、地域社会、地方政府高官の協力があつたが、経営困難は共通に見られた現象であること、
- (5) 経営困難により廃校になった盲啞学校が存在した一方で、経営の体制と理念が時代や地域に合致した盲啞学校があつたこと、
- (6) 教育界による盲啞学校支援の在り方は、県により大きな差があること、
- (7) 明治40年の師範学校附属小学校特別学級設置の勸奨という文部省政策は、当時の政府内環境としては、むしろ肯定的な評価ができること、
- (8) 明治30年代末以降、学業についていけないさまざまな生徒には、日常的な指導上の配慮が工夫され、組織的な指導体制を設けた小学校もあつたこと、
- (9) 小学校への盲啞学校附設論は、就学機会の拡大という意図を超えていた可能性があること、
- (10) 大正後半期に劣等児教育が盛んになる一因は、小学校に対する親や社会の期待が顕著になったこと、
- (11) 戦前期の特殊教育制度の偏りの根元には、後進国としての資源不足とその配分問題があり、教育関係者の先進国へのキャッチアップという志向が改善されず、ドイツとアメリカ合衆国からの教育学説の輸入と流行の繰り返しに陥つたこと、
- (12) 中央・地方政府が着手しない精神薄弱児施設は、民間資源により創設と運営がなされ、独自の成果を挙げたが、収容数は限られており、小学校との関係も、弱かつたこと、
- (13) 昭和戦前期の全期間が特殊教育の停滞期ではなかつたこと、
- (14) 国民学校令は戦後の学校教育法に引き継がれる部分があること、
- (15) 大戦前と大戦後の特殊教育は、連続する部分があり、戦後特殊教育体制のすべてが、戦後に新しく構築されたわけではないこと、
- (16) 大戦後は養護学校が義務化されなかつたために、昭和20年代には市町村中心の特殊教育が成立し、県中心の特殊教育とは異なる、地域社会を基盤とする特殊教育構築の可能性があつたこと、
- (17) 大戦後の文部省行政の中央主権化は特殊教育制度の確立に寄与したが、

地域社会の努力と自主的な判断に基づく  
特殊教育の確立を阻害する面もあったこ  
と。

以上の研究成果を一貫した歴史観から体系  
化して、二年後をめどに公刊する計画である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

[雑誌論文](計 20 件)

中村満紀男・岡典子(2015)戦後特殊教育  
の再建と再編成における分離問題と設置  
責任主体に関する検討 - 昭和 20 年代を中  
心に - . 障害科学研究, 39, p.1-16. 査読有

中村満紀男・岡典子(2015)昭和 37 年 380  
号通達までの県と市の特殊教育分担論・対  
象論と就学基準の確立およびその硬直化 .  
福山市立大学教育学部研究紀要, 3,  
p.77-98.

岡典子・中村満紀男(2015)私立神都訓盲  
院(1919-1948)の各種学校としての教育的  
・社会事業的意義 . 社会事業史研究,  
p.5-29. 査読有

高野聡子(2015)八幡学園における入所児  
の実態と教育・保護の内容 - 昭和 12(1937)  
年 ~ 同 17(1942)年の処遇方法と物的・人  
的環境を中心として - . 障害科学研究, 39,  
37-51. 査読有

本間貴子・米田宏樹(2014)1910 年代半ば  
から 1930 年代ニューヨーク市公立学校精  
神遅滞学級におけるカリキュラムの変容  
社会適応への重点化 . 特殊教育学研究,  
52(1), p.25-38. 査読有

中嶋忍・河合康(2014)明治 33 年におけ  
る長野県松本尋常小学校特別学級の開始  
と授業状況に関する史的研究 . 上越教育大  
学研究紀, 33, p.115-123.

中村満紀男・岡典子(2014)第二次世界大  
戦前と後の日本の特殊教育における連続  
性と不連続性に関する試論 . 福山市立大学  
教育学部研究紀要, 2, p.73-90.

岡典子・中村満紀男(2014)大正中期まで  
の中国地方初等教育界における劣等児問  
題の認識と対処 . 障害科学研究, 38,  
p.15-32. 査読有

中嶋忍・河合康(2013)明治 32 年におけ  
る長野県松本の特別学級制度に関する史  
的研究 - 就学猶予・免除者の状況と「特別  
学級編製議按」の規定について - . 発達障  
害研究, 34(2), p.195-206. 査読有

中嶋忍・河合康(2013)明治時代の雑誌「信  
濃教育」における特別教育の対象児童に関  
する研究論文の概要 . 上越教育大学特別支  
援教育実践研究センター紀要, 19,  
p.7-11.

野口晃菜・米田宏樹(2013)米国における  
通常教育カリキュラムの適用を前提とし  
た障害児教育の展開 . 特殊教育学研究,  
50(4), p.413-422. 査読有

岡典子・佐々木順二・中村満紀男(2013)  
大正 12 年盲学校及聾唖学校令の教育の質  
の改善に対する効果 - 公布前・後の盲唖学  
校の実態比較 . 障害科学研究, 37,  
p.129-143. 査読有

佐々木順二(2013)書評 筑波大学附属聴  
覚特別支援学校編『復刻『口なしの花』『殿  
坂の友』 東京聾唖学校同窓会誌』(全 4  
巻、明石書店) . 社会事業史研究, 44,  
pp.178-185.

高野聡子(2013)初期八幡学園における入  
所児の障害と教育・保護の内容 - 昭和 7  
(1932)年 ~ 昭和 12(1937)年を中心とし  
て - . 障害科学研究, 37, 197-211. 査読有

高野聡子(2013)文学やアートにおける日  
本の文化史 : 八幡学園における芸術教育の  
歴史 ~ 知的障害児の発達を育む絵画と造  
形作品 ~ . ノーマライゼーション, 2013 年  
8 月号, p.44-46 .

中村満紀男・岡典子(2013)入所型施設の  
完結としてのてんかん者施設の歴史的研究  
- アメリカ合衆国てんかん者施設史研究  
序説 - . 福山市立大学教育学部研究紀  
要, 1, p.69-78.

中村満紀男・岡典子(2012)新潟県内盲唖  
学校 5 校の経営困難問題と社会的基盤との  
関連 - 大正 12 年勅令までの高田校と長岡  
校を中心に - . 障害科学研究, 36, p.33-51.  
査読有

岡典子・中村満紀男・吉井涼(2012)日本  
の初期盲学校の創設理念とその達成状況  
に関する検討 - 高田・福島・東海 3 校の比  
較 . 障害科学研究, 36, p.1-17. 査読有

佐々木順二(2012)私立熊本盲唖技芸学校  
の県立移管における事業の性格について .  
VISIO, 42, p.43-57.

米田宏樹(2012)知的障害教育教科の特質  
と今日的意義 . 特別支援教育研究, 659,  
p.14-17.

[学会発表](計 12 件)

中村満紀男、インクルーシブ教育の源泉・現  
状・行方(教育講演)日本特殊教育学会、  
2013.9.1、明星大学(東京都・日野市)

中村満紀男・岡典子・佐々木順二・松矢勝宏、  
日本障害児教育史研究の再検討における  
新しい観点と成果(自主シンポジウム)  
日本特殊教育学会、2013.8.31、明星大学  
(東京都・日野市)

高野聡子、障害児教育・福祉史資料とアーカ  
イブズの現状と課題 - 知の体系化につい  
ての研究(8) - (自主シンポジウム)日本  
特殊教育学会第 51 回大会、2013.8.31、明  
星大学(東京都・日野市)

内田暢一・河合康、昭和 30 年代初頭までの  
光明学校における「治療」の展開に関す  
る史的研究、日本特殊教育学会第 51 回大会、  
2013.8.31、明星大学(東京都・日野市)

中嶋忍・河合康、明治 30 年代の長野県松本  
尋常高等小学校の成績不良児童対策に関

する史的研究、日本発達障害学会第 48 回研究大会、2013.8.24、早稲田大学（東京都・新宿区）

高野 聡子、戦時厚生事業期における精神薄弱児施設の機能 昭和 14(1939)年の久保寺保久(八幡学園初代園長)の大連における講演内容を中心として、社会事業史学会第 41 回大会、2013.5.11、日本女子大学(東京都・文京区)

高野 聡子、昭和戦前期の社会事業における精神薄弱児施設の機能と役割 - 日本精神薄弱児愛護協会の設立と精神薄弱児保護法の制定の要望を中心として -、社会事業史学会第 42 回大会、2013.5.10、長崎純心大学(長崎県・長崎市)

中村 満紀男、日本障害児教育史研究の意義を改めて考える - 盲啞児に対する教育界の関心の共有化と辺境化を通して -、日本盲教育史研究会結成大会招待講演、2012.10.13、日本点字図書館(東京都・新宿区)

松田 直、長期間の実践研究のなかで子どもを理解すること「重複障害教育から創出された教育実践の視点の共有と今後の教育のあり方」(学会企画シンポジウム 11)、日本特殊教育学会第 50 回大会、2012.9.29、つくば国際会議場(茨城県・つくば市)

佐々木 順二、聾啞学校卒業生の生活困難問題への学校後援組織による対処 - 昭和 5 年発足の熊本盲啞後援会の事例から -、日本特殊教育学会第 50 回大会、2012.9.29、つくば国際会議場(茨城県・つくば市)

高野 聡子、八幡学園における隣保事業と精神薄弱児教育の内容 - 昭和 3(1928)年の設立から昭和 7(1932)年の精神薄弱児施設への特化まで -、日本特殊教育学会第 50 回大会 2012.9.29、つくば国際会議場(茨城県・つくば市)

中村 満紀男、障害児に対する初等教育界の関心の共有化 - 大正 12 年盲学校及聾啞学校令までの小学校・県教育会・師範学校を中心に -、教育史学会第 56 回大会、2012.9.23、お茶の水女子大学(東京都・文京区)

〔図書〕(計 2 件)

米田 宏樹、放送大学教育振興会、改訂新版 特別支援教育基礎論、2015、39-61 ページ。

松田 直、松田直先生との対話集をつくる会、子どもたちとの係わり合いを振り返って、2013、250 ページ。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中村 満紀男 (NAKAMURA MAKIO)  
福山市立大学・教育学部・教授  
研究者番号：80000280

### (2) 研究分担者

河合 康 (KAWAI YASUSHI)  
上越教育大学・学校教育学部・教授

研究者番号：90224724

### (3) 研究分担者

岡 典子 (OKA NORIKO)  
筑波大学・人間系・教授  
研究者番号：20315021

### (4) 研究分担者

米田 宏樹 (YONEDA HIROKI)  
筑波大学・人間系・准教授  
研究者番号：50292462

### (5) 研究分担者

蒲生 俊宏 (GAMO TOSHIHIRO)  
日本社会事業大学・社会福祉学部・准教授  
研究者番号：60297976

### (6) 研究分担者

佐々木 順二 (SASAKI JUNJI)  
九州ルーテル学院大学・人文学部・准教授  
研究者番号：20375447

### (7) 研究分担者

高野 聡子 (TAKANO SATOKO)  
聖徳大学・児童学部・講師  
研究者番号：00455015

### (8) 研究分担者

木村 素子 (KIMURA MOTOKO)  
宮崎大学・教育文化学部・准教授  
研究者番号：60452918

### (9) 研究分担者

松田 直 (MATUSUDA TADASHI)  
高崎健康福祉大学・短期大学部・教授  
研究者番号：60099942

### (10) 研究分担者

園山 繁樹 (SONOYAMA SHIGEKI)  
筑波大学・人間系・教授  
研究者番号：90226720